

| 主要科目の概要          |  |
|------------------|--|
| (スポーツ科学部スポーツ科学科) |  |
| 授業科目の名称          | 講義等の内容   |
| 運動生理学            | 到達目標は、運動を調節する神経機構と機能、運動を発現する筋系の構造と機能、運動を持続させる呼吸循環系の構造と機能、運動の環境適応を理解することである。人体の神経・筋肉の働きによって生まれる運動について、人体の生理機能、エネルギー代謝等の側面から学ぶとともに、肥満・生活習慣病の克服に貢献できる運動療法やトレーニング法について学ぶ。  |
| 健康科学             | 到達目標としては、肥満対策や運動障害予防につながる運動療法、およびエネルギー代謝系、筋・神経系に関する理解を深めること、さらにその知識の健康および各種スポーツ場面への応用ができることを目指す。スポーツにおける人体の神経・筋肉の働きによって生まれる運動について、人体の生理機能、エネルギー代謝、筋活動、運動調節等の側面から学ぶとともに、スポーツ活動での減量法やトレーニング法について学ぶ。授業の終わりに、重要な内容を記述する時間を設け、その後に重要な内容を再度解説する。   |
| スポーツ心理学          | 人間が行動、活動としてスポーツを行う上で、スポーツと人間の心理的メカニズムを理解することは学習においても指導においても有用である。そこで、スポーツが人格形成に及ぼす影響や、個人の性格やとりまく環境などがスポーツの選択・パフォーマンスに影響することやスポーツへの動機づけ、効果的なスポーツ指導の具体的な方法論を理解する。そして、スポーツ選手の臨床心理的問題とスポーツによる健康面での行動変容について検討する。  |
| トレーニング論          | この講義では、健康づくりのための運動やスポーツ選手の競技力向上において欠かすことのできない種々のトレーニング理論、方法論について学習する。そして、各種のトレーニング方法を組み合わせながら、目的に応じて適切な目標と課題の設定を計画立案するための実践力を身につけ、安全で効果的なトレーニングができることを目指す。また、各スポーツ種目における専門的体力トレーニングのあり方についても学習し、競技力向上のためのトレーニング方法についても学ぶ。さらに、より適切で有効なトレーニングを行うための体力測定の実施方法や結果の評価や利用方法についてもふれる。   |
| 機能的解剖学           | 人体の解剖および機能学的知識の習得が目標の一つである。その基礎の上に、各種の運動に関わる筋肉・骨の協同作業を理解することが必要である。トレーニング期における身体負荷の意義や筋運動の力学的意義についても理解出来るように学習度を深めたい。  |
| 運動学              | この授業では、人間のスポーツ運動をひとつのまとまりのある運動として捉えることにより、競技実践や今後のスポーツ指導に役立つ基礎を提供するものである。様々なスポーツ場面で行なわれる人間の運動について、動きの質的視点からとらえた諸徴表(運動の局面構造、運動のリズム、運動の伝導、運動の流動性、運動の正確性など)や運動学習、運動の発達、運動の指導方法、さらにバイオメカニクスの基礎知識を理解することにより、自ら実施している競技や今後の指導実践の場に活用するための知識を獲得することを目的とする   |
| スポーツ栄養学          | 到達目標は、スポーツ・運動効果を高めるための適切な食生活について説明できる。トレーニング期、試合期、休養期の栄養管理について説明できる。競技種目別やライフステージ別にスポーツ・運動と栄養について説明できることである。スポーツ・運動の定義やスポーツ・運動効果を高めるための適切な食生活について概説する。トレーニング期、試合期、休養期の栄養管理について習得する。さらに、競技種目別やライフステージ別にスポーツ・運動と栄養について概説する。  |
| スポーツ経営管理         | 到達目標は、スポーツマネジメントの基礎理論を論じることができること、日本におけるスポーツマネジメントの現状と課題を説明することができること、スポーツの事例を通して獲得したマネジメント能力を様々な組織に応用することができることである。   |
| 運動発達・老化学         | 年齢に応じた運動学習と体力トレーニングの方法を習得し、適切な運動指導ができるようになることを到達目標とする。身体の機能について、行動体力という観点から、体格(形態・姿勢)、筋力、全身持久力、運動調整力に分類し、その特性について論じる。さらに、体力と運動能力の発達と老化の様相について概説する。特に、健康科学の最新知見を踏まえて、体力と運動技能の育成・老化予防のためのトレーニング法について、身体活動・環境・年齢(遺伝)の相互関連を考慮に入れて解説する。   |
| 体育原理             | 身体を動かすことで、その機能が変化することについての探求のはじまりは、古代ギリシャ時代にさかのぼり、運動と身体の関係が哲学的に探究され、そして一方では医学的に調べることが行われてきた。スポーツ科学の源流といえよう。本講義では、前者の立場から、スポーツの起源から今日までのスポーツの歩み全体を理解し、スポーツやそれを行う身体が歴史的に、哲学的にどのように捉えられてきたかというスポーツの意味について考察する。具体的には、西洋文化のプレイ論、東洋・中国哲学における身体論、現代哲学における身体論などである。次に、文化としてのスポーツについて論じ、教育としてスポーツ文化を学ぶ大切さを考える。現代スポーツを論ずる場合に避けられない倫理的な問題については、現代スポーツが抱えるオリンピズムを含めた現代のスポーツのあり様の変遷、スポーツルール論やドーピング、人権や政治との関係などについて考察していく。 |
| 体育史              | 体育の概念の成立はヨーロッパにおいては近代以降、我が国においては明治以後のことであるが、いわゆる身体活動は古代ギリシャより様々な形態で行われてきている。体育やスポーツがどのような形で現在のものに結び付いたのか理解する。体育やスポーツの意義は、時代と場所で変化することを認識し、また、身体観も変遷してきた。古代ギリシャ・ローマの古典的体育思想を概観した上で、18～19世紀における近代欧米体育思想史をドイツ体操論とイギリススポーツ教育論を中心に考察する。我が国の近代体育史については武芸から始まりから明治以降現代までを通史的にみる。体育・スポーツが今後どのように発展し、発展させていかなければならないのかを歴史的な観点から理解する。  |

|                      |  |
|----------------------|--|
| スポーツ医学(救急処置を含む)      | この講義では、スポーツと健康についての総論から、スポーツ選手の健康管理、スポーツに関係した病気、トレーニングによる生理的適応現象、生涯にわたる人の健康、スポーツ競技力向上のための科学、スポーツ中に生じる障害の解説とその予防に関して学ぶ。授業の概要は、スポーツと健康の概念の理解から始まり、体力と加齢の関係、発育期、成人期、老化期の特徴、スポーツ選手の健康管理、メディカルチェック、上肢、下肢、体幹のスポーツ外傷、障害、心臓異常と突然死、貧血などの内科的障害、熱中症、高山病など特殊環境下での障害、オーバートレーニング、摂食障害など精神的障害、コンディショニングの実際、スポーツと嗜好品、サプリメント、薬物、ドーピング、救急蘇生法、RICEなど救急処置法の実際やリハビリテーションの進め方などの諸問題について解説する。 |
| スポーツ社会学              | 到達目標は、様々な時代・場面におけるスポーツと社会の関わりについて説明できることである。スポーツを「遊び」と「労働」という観点から説明することができ、とくに商業化の影響や社会全体の経済構造との関係について述べることを目指す。スポーツはひとつの社会である。同時に現代社会の一部でもある。本講義ではスポーツと社会の関係について全体像と特色を指摘し、様々な角度から説明する。ここではスポーツが商業化していくなかでアマチュアリズムの伝統がどのように変容したか、社会教育の一環としてスポーツやレクリエーションはどのように位置づけられるか、ジェンダーについての社会意識の変化がスポーツにどのように影響したかなどの具体的場面を取りあげる。   |
| スポーツ実技Ⅰ(水泳)          | 水泳を教えるために必要な実技能力と、それらを習得するために必要な身体知を、実技試験課題をクリアする過程で獲得し、教育実習やスポーツ指導職における実技指導の土台づくりをする。また、海や川などの自然水域で長時間安全に泳ぐための知識を習得するとともに、基礎技術を獲得する。  |
| スポーツ実技Ⅲ(陸上)          | 陸上競技は、各種スポーツ・運動の基本的な要素である走・跳・投の各種目についての基本的理論および基礎技術を学習する。技術の改善とともに全体的な能力の向上をめざす。各種目の特性を理解し、トレーニングの方法を含めた指導法などについても学習する。記録会においては、短距離走、長距離走、障害走、跳躍種目、投擲種目の個人5種目において基準記録を設定し、全種目において基準記録を合格しなければならない。したがって、授業時においては基本的な動作の学習と習得に重点がおかれ、能力向上のトレーニングについては受講者の自主的な時間外練習が強く望まれる。各回の授業ノート(学習した技術、学習において工夫したところ、試験記録会を含めての感想)の提出が求められ、陸上競技が指導できる能力を養う。                          |
| スポーツ実技Ⅳ(テニス・バドミントン)  | テニスとバドミントンという関連あるいは類似しているよう使用するラケットもコートもルールも全く異なるストリングス系ラケット競技を題材とし、その基礎的・応用的な技術を習得することで両者の違いを学び、両者の指導ができる理論的、技術的な力をつける。練習や試合を通じて競技特有の楽しさ・醍醐味を理解し、スキル向上による自己決定や有能さの認知を目指し、仲間とコミュニケーションを取りながら協力して試合を運営する力を身につける。各回の授業ノート(学習した技術、学習において工夫したところ、試合を含めての感想)の提出が求められ、テニス、バドミントンが指導できる能力を養う。   |
| スポーツ実技Ⅵ(ダンス)         | ダンスは、古くから、人間の生活に密着したものであり、芸術活動、表現活動を示すものである。ダンスには、イメージ創造型(創作ダンス)、イメージ伝承型(バレエ)、リズム創造型(ジャズダンス、エアロビクスダンス、ヒップホップなど)、リズム伝承型(フォークダンス、社交ダンス)の型がある。この講義では、これらの型を理解し、ダンスの基本理論について学ぶ。そして、色々なダンスの基礎技術を習得し、高め、自ら創作する能力を養い、学校体育におけるダンスの指導方法を身につける。  |
| スポーツ実技Ⅶ(器械体操・トランポリン) | 体操のマット運動・鉄棒・トランポリンの基本的な技を学習し、中学校・高等学校学習指導要領の教員採用試験課題が実施できるようにする。また、調整力を養い、演技構成や技術練習の方法を工夫し、安全に補助する能力も身につける。マット運動、鉄棒、トランポリンといった体操は、全身運動であり、また、バランス感覚も必要であることから、様々なスポーツのトレーニングや調整力養成に幅広く利用されている。この講義では、マット運動、鉄棒、トランポリンにおける基礎的技術と補助法を習得し、体操における技術の基本的理論を理解し、安全に指導できる能力を養う。  |
| スポーツ実技Ⅷ(柔道・剣道)       | 武道の歴史や、日本固有の運動文化である武道の特性について学ぶ。実技においては、それぞれの基本動作を中心に技術を習得し、個人の体力や能力に応じた安全で効果的な練習方法によって、技術の理解と向上をはかる。更に、試合審判規定についても学び、試合を行う中で審判技術の習得と向上を目指す。(渡辺直)上級者を中心に応用技術を学び、簡易試合や形を行うことで、最終的には初段取得を目指す。(渡辺涼)初心者を中心に、礼法や基本動作、基本的な技について学び、武道の楽しさや魅力について体験する。  |
| スポーツ実技ⅩⅥ(バスケットボール)   | 熟練者と未熟練者が混在した体育授業を念頭に置いて取り組むことを理解した上で実践に反映できることを到達目標とする。具体的な目標は以下に示す。1)バスケットボールの「ボール操作」を実践できる。2)バスケットボールの特性を理解し、積極的に参加できる。3)チーム内で作戦を立てたり練習の工夫を行い討議できる。4)バスケットボールの特性や知識を説明できる。  |
| 武道論                  | 近代武道史の流れの中で特筆すべき事象に関連するものを選び、我が国の武道の身心観や技術観等について現代武道と関連させながら考える。武道における技術論、心法論、修行論、用具論などについて資料を分析することを通じて、日本の伝統的身体的運動である武道の特性を知ることを目指す。   |
| 球技論                  | 球技(サッカー)の歴史について理解することができること、および球技(サッカー)の社会に与える影響について理解し、考察することができることを目指す。・サッカーの発祥から現在に至るまで歴史をひも解く。概要は、サッカーの歴史について、文献調査等から、個人・グループでまとめ、発表を行い、これからの球技(サッカー)についてディスカッションを行い、サッカーの将来の展望について考察する。   |

|                |  |
|----------------|--|
| コーチング論         | コーチングには「教える」だけでなく、「伝える」「運営する」など様々な役割があり、競技力向上に関する指導だけでなく、チーム運営やマネジメントまで多岐に渡った役割を理解することが必要である。この講義では、コーチングとは何かを理解することから、スポーツ指導者としての心構え、指導方法、指導計画、一貫指導や安全管理など、将来指導者を目指すために必要なコーチングについての基礎的理論を学ぶ。また、様々なコーチングスタイルや海外のコーチングシステムにも触れながら、組織やチームを運営するために必要な能力を養い、将来の理想的なコーチングについて考え実践する能力を養うことを目的とする。  |
| スポーツコンディショニング論 | 到達目標は、コンディショニングに関わる様々な要因・手法・評価方法について理解し、正しいコンディショニングを実践でき、指導できる能力を身につけることである。コンディショニングには、身体的側面（トレーニング、怪我、リハビリテーション、栄養など）や心理的側面（メンタルトレーニング、メンタルヘルスなど）、ならびに技術的側面（戦略・戦術、バイオメカニクスなど）における様々な要因が含まれる。この講義では、コンディショニングに関わる様々な要因について学び、正しいコンディショニングの手法について理解し、自ら実践していく能力を養う。   |
| スポーツトレーナー演習    | 到達目標は、トレーニング対象筋の筋活動、筋力、筋パワー、持久力（心臓循環器）、調整力（反応動作、平衡機能）に関連する各項目を設け、それらの測定・評価法を習得することである。講義形式を交えて、スポーツトレーナーとして必要な体力項目の測定原理を解説し、それらの測定法とデータ処理法を教授する。   |
| メンタルトレーニング論    | メンタルトレーニングとは、自分の持つ能力が最大限に発揮できるよう、覚醒を最適の水準にコントロールする能力を高めることをねらった練習方法である。メンタルトレーニングの内容は、目標設定、リラクゼーション、集中力を高めるトレーニング、イメージトレーニングなどがある。日本のスポーツにおいては、1984年、ロサンゼルスオリンピックの頃からメンタルトレーニングが研究され、近年では様々な競技に合ったメンタルトレーニングも開発され、頻繁に行われている。この講義では、メンタルトレーニングの効果的な方法について理論的に学び、実践していく能力を高める。   |
| スポーツ技術・戦術論     | 到達目標は、各種スポーツの運動技術と戦術行動について各領域の概念や専門用語を用いて説明することができる。各領域の観点から運動技術と戦術行動を捉えることができる。専門種目の特性を明らかにし指導場面における高度な実践展開ができる。運動技術と戦術行動の意義と重要性を認識し、様々な種目の技術戦術に関する知識を習得する。また、各種目のルールの変遷に関わる戦術行動の推移を学習し、チーム分析や戦力分析ができるようになることである。   |
| 運動処方           | 安全性と効果を考慮した運動の種類、強度、時間、頻度などを各個人に合わせて設定する視点と、運動プログラムの立案とそれを実施する場合の要点を説明できることを到達目標とする。   |
| 学校保健           | この講義では、学校における保健活動すなわち保健管理、保健教育、安全管理・指導の諸問題について、児童・生徒の健全な発育・発達という観点から総合的に学習する。授業の概要は、学校保健の構造と内容の基本的な知識、健康の考え方、学校保健の意義と目的、学校保健法、学校保健関係職員のはたらきについて学習することから始まり、児童・生徒の発育発達の実態や体力の現状と課題について学ぶ。さらに、小児保健の現状、児童・生徒の健康障害とその指導、精神の健康管理・指導、学校における保健教育（性、エイズ教育）、喫煙、飲酒、薬物乱用の健康影響とその防止教育のあり方、環境衛生の維持、改善、定期的な健康診断、学校伝染病とその予防、学校における保健教育、児童・生徒の事故災害を防止し、安全な生活を確保するための安全管理・指導などの諸問題を学ぶことにより学校保健の知識を修得する。 |
| 保健体育科教育法Ⅰ      | 到達目標は次のとおりである。①学習指導要領の社会的・教育的背景について説明できる。②体育の目標について具体的に説明できる。③体育の領域について理解しており、指導計画を作成するポイントを理解している。④保健の目標について具体的に説明できる。<br>第1回～第3回では保健体育科の目標、内容、意義、学習指導・評価など、教科の本質と基本理論を理解すること、第4回～第18回にかけては「体育」について、第20回～第26回にかけては「保健」について取りあげる。  |
| 保健体育科教育法Ⅱ      | 到達目標は次のとおりである。①学習指導要領について説明できる。②中学校・高等学校の保健体育科における学習指導要領の各領域について具体的に説明できる。③学習指導案の書き方について理解している。④他学生の模擬授業から、観察、評価を適切に行うことができる。この授業では、中学校・高等学校の保健体育科の学習指導要領の各領域について理解を深めた上で、学生による模擬授業を行う。その観察法や評価法も踏まえながら、教育の実践能力を高めることをねらいとしている。  |
| 病理学            | 到達目標は、病気の要因と病気による体内の変化、生活習慣病の要因が生活習慣に深く関連していること、および生活習慣病の正しい理解を深めることである。<br>病理学は疾病の成因、それによる病変の成立機序を明らかにする医学領域である。この授業では健康な人に疾病が発生する際の病因、病態発生や形態変化の基礎となる物質代謝障害、炎症と免疫、循環障害、成長と発達障害、腫瘍や先天異常について解説する。  |
| スポーツボランティア論    | ひとは「自分のため」だけでなく、「他人のため」に生きることに喜びを見出す一面も持っている。こうした人間の善意がボランティア精神の源泉である。スポーツを通じたボランティア行動についても同様のことが言える。これらの世の中をよくしていくには、ボランティアやNPOの活動を広げていく必要がある。この講義では、歴史的な背景を含めて「善意の世界の仕組み」を知ることによって新しい生き方があることを知らしめるとともに、スポーツを通じて積極的にそうした活動に参加する意欲のある有為の人材を多数育成することを目的とする。  |

|            |  |
|------------|--|
| 生涯スポーツ論    | 生涯スポーツに関する基礎的知識を習得することを目的とする。現代社会における人々のスポーツへの関わり方の多くは「見る・参加する・支える」というものであるといえよう。その中で、生涯スポーツは、人々が自分のライフスタイルや年齢、性別、体力、関心に応じて主体的に楽しむという意味で「する」スポーツの代表といえる。少子高齢化が進み、健康志向が高まり、社会が高度情報化、複雑化している現代社会においては、ますますスポーツ活動の必要性は高まってきている。本講義では、生涯スポーツの歴史と意義を検討し、生涯スポーツ振興の現状を把握し、「するスポーツ」の視点だけではなく、「スポーツを支える」という視点からのアプローチによって多角的に生涯スポーツを論じていく。        |
| スポーツビジネス概論 | スポーツを取り巻く事象をスポーツビジネスの視点から捉え、その基礎理論を理解するとともに、スポーツビジネスの実践的な在り方について学ぶ。スポーツビジネスを取り巻く環境について理解を深めて、その問題点や今後の課題について考える事を到達目標とする。<br>概要は、スポーツビジネスの基礎理論について歴史的経緯を踏まえた上で理解し、各領域（地域スポーツ・民間スポーツ・プロスポーツ）の現代的課題を把握し、地域に根差したスポーツの在り方を考えこと、および具体的な内容としては、スポーツサービス、スポーツサービスと経営資源、（スポーツ施設等の物的資源、スポーツ指導者等の人的資源、財務的資源）、スポーツビジネスの現代的課題、運動者行動や運動生活の分析と活用などである。 |
| 生活習慣病概論    | 到達目標は、生活習慣病の発生と食生活、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣の関係について理解すること、生活習慣病予防につながるライフスタイル改善のための運動療法や食事療法について理解すること、および生活習慣病予防のための運動指導の基礎を習得することである。生活習慣病の発生には、食生活、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が影響する。本講義では、ライフスタイル改善のための運動療法や食事療法の知識を学習し、肥満の機序、遺伝、種類を理解すると共に、メタボリックシンドロームと生活習慣、運動器退行性疾患や認知症など、高齢化に関連して発症するさまざまな疾患の発生機序や予防・対策の概要について取り上げる。                          |
| スポーツメディア論  | 到達目標は、スポーツとマスメディアの関係とそこに内在する問題点について歴史的観点から説明できること、およびスポーツ報道の在り方について、自身の見解を挙げることができるようになることである。新聞をはじめとする各種マスメディアにとって、スポーツは重要な位置を占めている。その一方で、スポーツの振興にとってマスメディアが演じる役割は決して軽視できない。本授業では、こうした観点からスポーツとマスメディアの関わりを跡づけ、現状と問題点を説明する。そのうえで、スポーツ報道の在り方について検討する。   |
| スポーツ文化論    | 観戦を含めて、現代人の生活の一部となっているスポーツの在り方や社会的役割について、その誕生と発展の過程をみつめ、また、現代における特徴と問題点を探る。これにより、特定の地域や民族枠を超えて人類を結び付けるスポーツの文化的役割を理解することを到達目標とする。本講義では、伝統的身体文化が、地域に根付き伝承されていることを学ぶ。各地方の体育・スポーツ文化の動向等と全国的動向を参照しながら、体育が教育の一環として果たした役割、あるいは教育を介して普及する余暇活動としてのスポーツを学ぶ。また、スポーツの普及・発展にかかわるさまざまな側面に焦点をあてて、その問題点を浮き彫りにしながら、現代人にとっての「スポーツ」とは何かを考える。                |
| 健康産業施設現場研修 | 到達目標は、健康運動指導者として必要とされる知識・技法を修得するとともに、健康づくりが展開されている現場で実習を体験し、運動指導の専門家としての視野を広げることである。学外実習施設で、実際に被指導者（一般施設利用者）に対して、面接、体力測定等を行い、各種講座の運営方法やその指導技術、介護予防に関する評価方法と運動処方技術の技術を学び、指導要領・体力運動づくりプログラムの作成や運動指導等を経験する。   |
| 健康管理演習     | 日本における健康づくり対策の取り組みの必要性を理解し、その対策としての自ら健康づくり運動が実践でき、適切に指導できるようにする。具体的運動は特定保健指導を視野においた健康運動及び高齢者の介護予防を目的とした運動器機能向上トレーニングの両方を体験し、個人に応じた指導方を習得する。健康運動実施及び指導の際には、健康診断、個別運動計画作成・運動指導・打ち合わせ、生活習慣アセスメント・計画作成、栄養調査などを作成する意義を理解する。同時に健康づくりのための身体活動量・運動量の設定が、体力レベルや年齢レベルに応じて、科学的根拠に基づき実施できるようにする。   |
| スポーツ統計学    | 到達目標は、スポーツ科学や健康科学に関するデータの扱い方や基本的な統計手法について理解したうえで、実際の事例に応用できるようになることである。スポーツ科学や健康科学に関する例を取り上げながら、データを要約するための計算方法（代表値や散布度の計算、五数要約など）やデータの特徴を表す図（箱ひげ図、ヒストグラム、散布図など）、基本的な統計手法について解説する。基本的には講義形式で進行しながら、理解を深めるために適宜簡単なワークを取り入れる。  |
| サッカー指導演習   | 到達目標は、①日本サッカー協会公認C級ライセンスの取得することができること、②サッカーの基本を理解し指導者としての基本スキルを身につけること、および③サッカーの基本を理解し選手としての基本スキルを身につけることである。日本サッカー協会の公認C指導者養成講習会のカリキュラムに基づいて、資格取得に向けての細やかな学びを実践する。  |
| 生命倫理       | 生命をめぐる倫理的諸問題を様々な視点から分析し、ライフサイエンス・医学の先端技術の急速な発展の中で、生と死にかかわる医療と健康分野における今日的課題について理解ができることを目標とする。また、スポーツを巡る倫理的諸問題について学び、自立的な判断能力の向上を目指す。生命倫理に関わる自然、人間、社会について論じる。身体論、遺伝子、脳科学について概説し、生命倫理に関わる諸問題を取り上げ論じる。  |

|                  |   |
|------------------|---|
| <p>スポーツ法学</p>    | <p>到達目標は、スポーツと社会の関わり方について説明できるようになることである。とくに、スポーツに関する法や制度、種々のスポーツ組織の役割、競技者やスポーツ組織がもつ権利について説明やアンチ・ドーピングやスポーツ事故などの場면을法がどのように扱うのかを指摘でき、スポーツを実践・観戦・支援するにあたって直面する諸問題に応用できるようになることである。スポーツはひとつの社会である。同時に現代社会の一部でもある。本講義ではスポーツに関わる法や制度について全体像と特色を指摘し、様々な角度から説明する。そこではスポーツ仲裁やスポーツ組織の体系を取りあげ、スポーツ基本法などの具体的な法律を参照する。さらに事故や知的財産管理などスポーツと法が交わる具体的場면을挙げながら、法がスポーツをどのように扱うのかについて検討する。</p> |
| <p>レクリエーション論</p> | <p>現代社会において、レクリエーションは子どもから高齢者、個人から集団に至るまで幅広く効果が認められている活動であり、高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。本講義では、レクリエーションについての基本的理論を学ぶとともに、社会変化に伴うレクリエーションの社会的意義、役割について理解することを目的とする。</p>   |